

## 【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2025年7月14日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	経営学部経営学科
留学(渡航)した時の学年	3年生
帰国年月日	2025年6月30日
明治大学卒業予定年月	2027年3月
留学先大学について	
留学先国	オーストラリア
留学先大学	シドニー工科大(日本語名) University of Technology Sydney(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2025年2月～2025年7月
留学先大学で在籍した学年	3年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称:  <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4月上旬～7月下旬 2 学期: 9月中旬～2月上旬	1 学期: 2月中旬～6月中旬 2 学期: 7月下旬～11月下旬 3 学期: ~ 4 学期: ~
学生数	5万人弱
創立年	1988年

留学費用			
留学費用項目	A 現地通貨 (AUD) (1 現地通貨＝ 約 100 円)	B 日本円	備考
授業料	0	0 円	明治大学の学費のみ
宿舍費	9,125	円	
食費	4,000	円	
図書費	0	0 円	教科書がいないものを選び、全て ipad
学用品費	0	0 円	全て ipad
携帯・インターネット費	200	円	月々AUD \$ 39
現地交通費		80,000 円	家から学校まで往復 800 円バス(□大 学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		0 円	
旅費(留学中)		350,000 円	ニュージーランド、フィジー、メルボルン、 ウルル
被服費	100	円	思ったより寒くて買いました
医療費	0	0 円	0
保険費		80,000 円	形態: 明治大指定のものとオーストラリア 政府指定のもの OSHC
渡航旅費		250,000 円	
ビザ申請費	1,600	円	
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
合計 ※現地通貨 および 円	15025 (=1,500000 円)	760,000 円	
総計(A+B) ※円		2,000,000 円	レートの関係で 200 万以内です

※現地通貨で支払ったものは「A 現地通貨」の欄に、日本円で支払ったものは「B 日本円」の欄に記入し、総計も記入してください。

※現地通貨名、現地通貨と円の為替レートも必ず記入してください。



## 現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: )

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等: )

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

ホストファミリーとシドニーに住んでい友人から情報を集めました。防犯対策は特にしていませんでしたが、ホストファミリーに危険だからしないほうが良いと言われたことはしない、夜には不用意に出歩かないなど基本的なことには注意していました。スリ対策も行っていました。また、海、川、山は簡単に命を落とすことがあるため、行く際は十分注意をしていました。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

Optusの1ヶ月100ギガで4,000円弱のeSimを利用しましたが困ったことはありませんでした。家、学校内のWi-Fiも問題なく接続できました。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

日本からクレジットカード1枚、デビットカード1枚、現金5万円を持っていきました。現金は1回も使いませんでした。情報を抜かれて不正利用されるのを防ぐために、クレジットカードは2枚ともスマホに登録して、全てスマホを使用して決済しました。カードは市場や老舗店などどこでも使えますが、現金は使えないことが多々あります。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えて下さい。

高いお金を払えば基本的になんでもそろいます。百均も全て高いですがあり、ほとんど日本の百均と変わらない品揃えです。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計		本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
24 単位		<input checked="" type="checkbox"/> これから申請します単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限		
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他( ) <input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった: UTS で予め単位を取らないと選択出来ない授業が、留学生向けに載っている科目一覧にも含まれています。シラバスに全部書いてあるのでチェックが必要です。		
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。		
履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Diversity Management		ダイバーシティマネジメント
科目設置学部・研究科	business	
履修期間	12/3	
単位数	6	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義、チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に講義 90 分、チュートリアル 90 分がそれぞれ 1 回	
担当教授	Simone Faulkner	
授業内容	多様化するビジネス環境の中で、DEI を促進するためにはどうしたら良いかに関して、毎週の講義で紹介される大企業、振興事業の事例と新しい理論に基づいて分析。また、自分が企業の中で人の上に立つときに、インクルージョンをどのように促進すべきかについて、実際にグループで行動規範を作成し、それに基づいてインタビュー、プレゼン	
試験・課題等	授業内容に関する記述式試験 2 回、企業事例のケーススタディの記述式試験、実際の企業の方にインタビューを行ってそれに基づくグループプレゼンテーション、DEI に関するビデオ作成兼振り返り	
感想を自由記入	毎週の予習課題がビデオが多くて取り組みやすかったです。逆にやらないと全く理解できなくなります。先生は私の英語が完璧ではないことを考慮してくださり、授業内容も毎週明白でわかりやすかったです。チュートリアルはケーススタディのディスカッションが多かったです。毎回異なるチームを組み、知らない人とディスカッションをすることが出来ます。この授業のみ他大学からの日本人学生がいたため、心強かったです。覚えることや論理が多いですが、多様性に関するオーストラリアからの視点を学習できる上、先生がとても親切なのでおすすめです。他の授業と比較して課題は多めでしたが、その分一つ一つの課題がそこまで難しくありませんでした。グループプレゼンテーションはグループ内で実際に働いている人にアポイントを取ってインタビューを行い、それに基づいて資料を作成してクラス内で行いました。先生のフィードバックも充実していて、今回取った 4 つの授業の中では 1 番好きな授業でした。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Innovation and Entrepreneurship	イノベーションと起業家精神
科目設置学部・研究科	business
履修期間	12/3
単位数	6
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Jayden Pilling
授業内容	自分が起業家になったとしたらビジネスをどう動かすか、実際に課題を抱える企業の方が来てくださり、それに対する解決案やそれに対抗するアイデアなどを出してそれを実際にグループごとにプレゼンする。
試験・課題等	毎週の確認テスト、企業のイノベーションに関するレポート、企業コンサルのグループプレゼンテーション、プレゼンの振り返りレポート
感想を自由記入	<p>明治大学経営学部の経営学、経営管理論で学習したことの応用編のイメージです。レポートは形式が非常に細かく決まっています。企業の成長と革新のレポートに関するものは特に大変でした。しかし提出期限前に出して先生にお願いすると添削を受けられるため、私にとっては大変ありがたかったです。賛成反対の意見をはっきり言わないとグループプレゼンテーションでやりにくくなります。マイナスの点は出席を取らないため、欠席をする学生が多くなり、結果としてグループ内でプレゼンの進捗状況を照らし合わせることを毎回行った点です。授業の内容は毎回の授業前にオンラインで講義を受けないと今何を目的として動いているのか理解できず置いてけぼりになりますが、毎回しっかりやっていたらゴールが明確で面白かったです。また、オンラインの講義を欠席すると、毎週出されるクイズが全く分からなくなります。クリエイティブな思考が求められませんが、私のように頭が固くてもグループで協力して最終課題に向けて準備することが出来ます。また、最終プレゼンに対して順位付けが行われ、良いものは賞をもらうことができます。内容は一番難しかったです。周りも自信家が多く、刺激的でした。</p>

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Self and Society	自己と社会
科目設置学部・研究科	Arts and Social Science
履修期間	12/3
単位数	6
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に講義 60分、チュートリアル 90分がそれぞれ 1回
担当教授	Zozan Balci(講義)、Rayma Watkinson(チュートリアル)
授業内容	主に階級、人種、ジェンダーなどに焦点を当て、これらの社会的な構造と固定観念がどのように個人や集団、社会に影響を及ぼし形作っているのかについて考える。
試験・課題等	授業内容のテスト、インタビューおよびそれを踏まえたレポート、最終レポート
感想を自由記入	<p>講義は大教室でしたが、先生がマイクを使うので聞きやすかったです。今回受けた所業の中ではこの講義の先生の英語が一番聞きやすく、簡単に理解できました。チュートリアルの時間はアジア人が私のみでした。だからこそアジア人、日本人の価値観から発言することで周りからのフィードバックや意見などが際だって、建設的なディスカッションでした。日本の常識や価値観などを率直に話すことで、自分の生きてきたあたりまえについて考えさせられる授業でした。チュートリアルの先生のオーギーイングリッシュには苦戦しましたが、むしろ授業内容に加えて英語も学習できてお得でした。</p> <p>課題は自分と異なる世代の人にインタビューをするもので、インタビュースクリプトも提出する必要があったため手間がかかりました。しかし、レポートに関するフィードバックは1番手厚く、どこをどう直せば良かったのか明確に示していただいたため、その後続く最終レポートや他の科目のレポートを作成するのに非常に役立ちました。また、レポートのサンプルを提示してもらえたり、チュートリアルの先生が定期的にフィードバックをくれたりと難しくはありませんでした。難易度、内容ともにおすすめです。</p>

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Business Ethics and Sustainability	ビジネス倫理と持続可能性
科目設置学部・研究科	business
履修期間	12/3
単位数	6
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Juliana Jamalluddin
授業内容	ビジネスの状況下で、倫理観を優先させるか、それとも効率化と全体の利益を追求するかをSDGsやダイバーシティ、DEIの観点から総合的に分析する
試験・課題等	個人に割り振られた課題に関する意見文とビデオ作成、グループプレゼンテーション
感想を自由記入	<p>正解がない世界が抱える持続可能性の問題に対して、それぞれのグループ、個人が立場を分けて考察し、プレゼンを行いました。</p> <p>同じグループの人に聞いても単位を取るのには難しいとのことでしたが、毎回の授業に必ず出席し、グループプレゼンテーションに向けて協力して準備する意欲が求められます。</p> <p>先生が大変優しく、厳しい環境でストイックに取り組みたい私にとっては少し不向きな科目でした。内容もDiversity Managementと重複する箇所があり、もっとアクティブな科目を選びたかったです。新しい学びの面ではこれが一番少なかったです。単位を確実に狙うならおすすめです。</p>

## 卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職   進学   未定   その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。  
(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)  
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。  
ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。  
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

スーツと就活用の証明写真を持っていけばよかったです。夏インターンのためのオンライン面接や自己PR用のビデオなどが5、6月ごろから必要になる場合があります。スーツは友人のを複数回借りて、証明写真はこちらでとりました。安いものでも2000円ほどかかります。UTSにマイナビの方が来てくださって今後の流れに関する説明会には参加しました。その他外部の就活イベントも複数あり、大きく心配する必要はありません。同級生は3年4月からやっている人が多くいて出遅れている感覚があるので、帰国をしてから本格的に取り組みます。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

## 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1月～3月	留学決意
	4月～7月	IELTS 取得、留学計画書提出、面接
	8月～9月	留学可否発表、入学許可証申請
	10月～12月	複数書類提出、ビザ申請
留学開始年	1月～3月	渡航準備、出発
	4月～7月	留学生活、帰国
	8月～9月	
	10月～12月	
留学/帰国年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

## 留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生活全般等について、アドバイスを記入してください。

私が留学を決めた正直な理由は、明治大学の友人に誘われたからです。大学 1 年の終わりの頃、何もしていなかった私とは違ってその友人は二年生の秋から一年間アメリカ留学に行くとのことでした。自分の身近にこんなにも意識が高く目標がある人がいるなんてと思い、そこから半年間、留学のために準備を進めました。オーストラリアに留学される方の多くは IELTS を取得されると思いますが、留学のために取った IELTS は最低限のラインで、同じ留学生も同じだけのあるいはそれ以上のスコアを取っているので授業を受ける、グループワークをする、テストを受けるためにも、英語資格を取得した後でも継続して英語学習を続けていただきたいです。

オーストラリアを選んだ理由は卒業を遅らせることなく行ける 3 年生の春学期に募集があった英語圏であったため、シドニー工科大を選んだ理由は取得したアイエルトスの得点の中で一番世界 QS ランキングが高くて街の中心にあったためです。さらに私が明治大学で学習している内容と興味のある分野がより発展的に学習できると思ったからです。長く生活したところを大きく離れて、違った環境で生活することはもちろん簡単なことではありません。しかし、自分が経験したことよりも価値のあるものはありません。さらに、日本を離れて俯瞰することで気がつかなかった日本の良さ、悪さに気がつくことが出来ます。

シドニー工科大に留学することで、全大陸に友達が出来て、一学期間の留学であっても、今でも電話やメッセージで日々連絡を取るような仲になります。学校のすぐそばにはハーバーがあって友人とよく行っておしゃべり出来たり、イベントごとが多いオペラハウスにも歩いて行ける距離にあたりと立地は申し分なく、サークルも多くて日常が楽しくなります。スマホを紛失したり(セキュリティに届けられていて返ってきました)、人種差別を受けたり(ニュージーランド)とトラブルもありましたが、友人やホストファミリー、先生方に恵まれ、離れるのが大変名残惜しいと思える留学生活でした。

大学生という自分の時間が自由にあるせいかくの機会でももしないよりは一步踏み出して自分のためになるお金を出すだけでは買えない若さと経験に価値を見いだすのならば、留学は大変おすすめです。